

# 外部交流活動



## 三重県朝日町・

### 竹細工サークルとの交流

・日時:2013年7月13日(土)

・場所:展望の館

三重県朝日町の伊藤様から、八幡たけくらぶのホームページを見られて、竹細工同好会があるのを知り、交流会の申し込みがありました。

当日は、6名の方が訪問され、竹細工作品を相互に紹介しあいました。大変素晴らしい作品もあり、大変有意義な交流会でした。今後の竹細工同好会に活かすよう取り組みたいものです。



## 京都発・竹環境ネットとの交流

2014年6月に、NPOとんかちの紹介で木津市にある「京都発・竹環境ネット」の皆さんと、出会いがあり、特に「燻竹」を作成されていることから、たけくらぶの竹細工にも活用できることから交流が始まりました。

10月には10名の会員が参加し、竹伐りから燻竹作成まで体験し、展望の館の壁材用に燻竹を作成し、古くなった竹との交換も実施しました。竹環境ネットの筒井さんと中山さんには大変お世話になり好意的に燻竹作成にご協力を頂きました。我々も好

意に対し、燻竹による竹細工を作成しプレゼントしました。これを機会に燻竹の竹材として展望の館で販売もする事になりました。



＜燻竹の作成風景＞

## 長岡京市・竹あそび

### 放置竹林整備団体との意見交流会

・日時:2014年1月26日(日)

・場所:長岡京こらさ

(長岡京市世代交流ふれあいセンター)

・参加者:おとなりさん互助会・野山竹炭ランド

NPO法人竹の学校

長岡京市環境の都づくり会議

久保川と天王山の森林を守る会

長岡京市環境経済部

長岡京市竹あそびスタッフ

NPO法人八幡たけくらぶ(3名参加)

長岡京市竹あそびのスタッフの呼びかけで、長岡京市の竹林整備団体との交流会に参加し、意見交換を行いました。伐採した竹をいかに有効活用できるか、自分たちが住む街に自然を残し、美しい竹林里山を保ち、若い世代に竹林との共生を知ってもらいたいという熱い思いは共通でした。また、八幡と長岡京とコラボして、拠点を三川合流地点に作って、互いに力を合わせていく投げかけをしようではないかとの意見もでした。

＜参加者からの話題＞

- ・竹林は手を入れなければ荒れる。
- ・竹林整備場所は山の傾斜がきつく、体力面も含めて会員が高齢化し、経験や技術だけでは難しいことも多い。
- ・子供たちには季節の折々に、筍掘りや、カブトムシのいる森に案内、竹灯籠の提供、竹細工での竹の性質や面白さを知ってもらう活動が原点。

## サンフォレスターとの交流会

・日時:2014年11月16日

・場所:石清水八幡宮竹林、展望の館

〈サンフォレスターからの御礼状〉

昨年11月16日に、八幡たけくらぶに訪問させていただき、竹林整備の現地や活動拠点を見せていただく中で、丁寧な説明をいただき有り難うございました。

安全作業マニュアルを作成して安全作業を徹底されていること、竹材の運搬にVベルトを活用されていること、不要竹の処分に粉碎機を使用されていることなど、安全で効率的な作業が参考になりました。

また、展望台茶店を借りて活動拠点を作られたこと、竹細工同好会が竹細工の展示、販売をされていることなど、竹林の所有者や一般の方々との繋がりを大事にされていることも非常に参考になりました。

私たちサン・フォレスターは、会員数は現在34名で、木津川市にある「山城町森林公園」の一角の雑木林(約17ヘクタール)を中心に活動しています。

発足は1996年で、京都府と山城町(現木津川市)がボランティアを募集して、当初は行政主導で会員50名でスタートし、翌年から自主的な活動に移行し、ボランティア団体「サン・フォレスター」を組織して、毎月第1土曜、第3日曜を中心に森林保全活動を行っています。

フィールドは森林公園内にありますが、約8割が雑木林、約2割がスギ、ヒノキ人工林の里山で、春にはミツバツツジ、初夏にはササユリ、秋には紅葉など魅力が沢山あります。

また、モリアオガエルも生息しており、動植物の生息環境を維持することも活動の中心にしています。



伐採した広葉樹でのシイタケの栽培や、森林公園の他にも竹林や栗園を借用して、タケノコ掘りや栗の栽培もして、森の産物も楽しみに活動しています。

今後も、京都府南部で活動する森林ボランティア団体の交流を通じて、活動を盛り上げていきたいと考えています。サン・フォレスターの森にも是非お越しください。

(サン・フォレスター企画担当:由里 勇二)

## 洛陽ラボステーションとの交流

2014年12月13日から始まった「京都環境フェスティバル」の会場において、洛陽工業高校の生徒が、たけくらぶのブースに来て、自分たちで作っている竹細工の商品を売る場所の提供と、1人100円の株主になって欲しいと訪問してきました。

洛陽ラボステーションは、2014年11月18日に産経新聞に「洛陽工生の模擬会社で、間伐竹材で商品開発」でも紹介されています。これは、課外授業で模擬の株式会社を設立し、会社経営を体験する取り組みをしている生徒たちが、間伐竹材を加工した弁当箱やLEDスタンド、竹炭などを商品開発し、販売するものです。

「日本の伝統・文化、豊かな自然・風土を座標軸に、新たな価値の創造」を経営理念とし、森林資源の活用と放置竹林の問題解決などをテーマに掲げる会社です。また、利益の一部を東日本大震災の被災地に桜を植えるプロジェクトに寄付もされています。たけくらぶと活動理念が共通していることもあり、運営委員会で協力することになり、展望の館で竹細工販売をするようになりました。

## グループ竹輪会との交流会

・日時:2015年2月22日

・場所:宮津吉野茶屋

山城広域振興局の山路様の仲介で、竹輪会と木津の竹環境ネットとたけくらぶの討論会を実施したいとの申し出があり、京都の舞鶴で燻し竹を使用して改装された吉野茶屋さんで行いました。当日は竹環境ネットからは理事長が参加され、たけくらぶからは4名が参加しました。又、京都の北と南のアンテナショップの協業について交流や、滋賀県立大学の藤本准教授の講演会にも参加しました。

